

第2四半期（2025年7～9月）景況動向分析 結果報告書

和東町商工会

1. 調査概要

本調査は、和東町商工会が実施する経営発達支援事業の一環として、2025年7月から9月にかけて実施したものである。町内の農業、製造業、小売業、飲食・宿泊業など複数の事業所から回答を得て、地域経済の動向を把握することを目的としている。

2. 売上高の動向（前年同期比）

売上高については、農業・製造業・飲食業で増加が多く、需要回復や単価調整が進んでいる。一方、小売業では横ばいが中心であり、価格転嫁の難しさがうかがえる。

3. 販売数量の動向

販売数量は、農業・製造業・飲食業で増加が見られた。観光需要や消費回復が影響していると考えられる。小売業では横ばいが多く、消費者の節約志向が続いている。

4. 売上単価の動向

売上単価は、農業・製造業・飲食業で上昇が多く、原材料高騰に伴う価格調整や付加価値化が進んでいる。一方、小売業では単価据え置きが多く、価格転嫁が難しい状況が続いている。

5. 原材料・仕入単価の動向

原材料・仕入単価は全業種で上昇が見られた。肥料・資材、食材、仕入商品など、物価高騰の影響が広範囲に及んでいる。

6. 採算（経常利益）の動向

採算については、農業・製造業・飲食業で好転が見られた。売上増加が利益改善につながっている。一方、小売業では採算は横ばいが中心であり、仕入単価上昇を吸収しきれていない。

7. 資金繰りの動向

資金繰りは全業種で「好調」または「不変」が大半を占めており、急激な悪化は見られない。全体として安定した状況が続いている。

8. 今後3ヶ月の見通し（令和7年10～12月）

今後の見通しについては、農業・小売業では売上・数量ともに横ばい予測が多い。製造業・飲食業では増加を見込む事業所もある。原材料単価は全業種で上昇見込みが強く、コスト増が継続すると予測される。採算・資金繰りは「不変」が中心で、慎重な経営姿勢が続く。

9. 経営課題（業種横断）

多くの事業所で共通して挙げられた課題は以下の通りである。

- 商圏・顧客ニーズの把握
- 業務の効率化
- 新たな販路開拓

また、業種別の傾向として、農業・製造業では人材確保、飲食業ではPR・知名度向上のニーズが強い。

10. 求める支援策（業種横断）

事業所が商工会に求める支援として多かったのは以下である。

- 顧客ニーズの把握支援
- 業務効率化支援
- 販路開拓支援

業種別では、製造・農業で人材確保支援、飲食業でPR支援の要望が見られた。

11. 総括

第2四半期は、農業・製造業・飲食業を中心に売上・数量・単価が増加し、全体として堅調な推移となった。一方で、原材料高騰は全業種共通の課題であり、利益圧迫要因となっている。

今後の見通しは横ばいが中心で、慎重な経営姿勢が続くと考えられる。商工会としては、顧客ニーズ把握、業務効率化、販路開拓を中心とした支援が求められている。
